

「下水道管更生技術施工展2019金沢」開催 ～更生工法分野の最大の施工展～

井坂 昌博

ISAKA Masahiro

(公社)日本下水道管路管理業協会
常務理事



1. はじめに

下水道管更生技術施工展が10月3日（木）に金沢市にある西部緑地公園多目的広場で開催された。金沢市での開催は、平成21年の台風により中止となった幻の第10回のリベンジ版であり場所も同一箇所であった。今回も大型台風が接近してきたことから、開催の判断に迷ったが、幸いにも台風が日本列島からそれるという予報に変わったため開催を決断した。当日は曇りであったが晴れ間も覗くまづまづの天気恵まれた。翌日が暴風雨にみまわれ展示会など出来る状況ではなかったことを考えると、その幸運に感謝した次第である。

この展示会は、各種工法や関連技術を一堂に会しデモ施工を実際に見てもらい、その最新の技術を体で感じてもらうと毎年全国を巡回して開催しているものである。今回は北陸地方において、今後管更生工法の発注が大きく伸びるであろうと予想される中での開催という事もあり、40社・団体と多くの出展数となった。来場者数も1,300人を超え、3大都市圏以外の開催では、非常に多くの方に来ていただいた。

下水道の展示会では、下水道展が最大のものである



写真-1 会場風景

が、屋内であることやブースの制約から全ての出展者がデモンストレーションを行うことはできない。更生工法においてこれほど多くの工法が一堂に会してデモンストレーションを行っているのは、この施工展以外には見当たらない。この施工展が注目を集める所以である。

主催は当協会本部及び中部支部で、国土交通省北陸地方整備局、石川県、金沢市、中部地方下水道協会、(公財)日本下水道新技術機構の後援を得ることができた。

2. 開会式には植松下水道部長が出席

開会式は、ミス日本水の天使の西尾菜々美さんに司会をお願いし、来賓として国土交通省水管理・国土保全局植松龍二下水道部長をはじめ、北陸地方整備局建政部長、石川県土木部長、金沢市公営企業管理者などが忙しいスケジュールを縫って出席され、注目が集まる中での進行となった。主催者を代表して当協会の長谷川会長の挨拶に引き続き、植松部長をはじめとして各来賓の挨拶が行われ、管更生工法に対する期待が述べられた。テープカットの後は来賓の方が各ブースを見回すなか、いよいよ開幕となった。

出展団体を分類別に示したのが表-1で、管きょ更生・補修・改築技術が中心であるが、関連技術としてマンホールや防食を始め、穿孔ロボットや管内清掃、さらには調査点検技術も多く出展され、管路管理全般の展示会の様相であった。実演は1団体20分程度の枠を設け、実機を用いたデモンストレーションによって施工の手順や様子を実際に目で見て確認することができた。「百聞は一見に如かず」ということわざがあるが、実際に見た事は長く記憶に残り強く印象付けられる。来場者アンケートにおいても、最新の技術の収集や工法の選定にあたって大いに参考になった、との結果であったことは頷けるところである。

表－1 出展団体の分類

分類	出展社数
管きょ更生・補修・改築	17
マンホール改築・補修	10
調査・点検・診断・解析	8
管内洗浄・清掃	6
穿孔ロボット	4
コンクリート防食・被覆	4
安全衛生管理	4
管路管理ソフト	2
耐震化	2
後援団体	2



写真－2 開会式（テープカット）

3. 展示会に合わせた県主催の研修会の開催

今回は、石川県に協力いただき、県主催で県下の市町村に向けた研修を開催することができた。午前中は更生工法全体の概要の講義を行い、午後はデモンストレーションで各種更生工法を見るという内容である。県が主催ということや、最初に座学で全体を知りその後実地でそれぞれの更生工法を体感するというプログラムであったことから、ほぼすべての市町が参加した。隣の富山県においても、同様な内容で当協会主催の研修を開催したが、富山県が市町に声をかけていただいたため多数の自治体職員が出席してくれた。もう一つの隣県である福井県は、バスによる施工展研修を計画した。この研修にも福井下水道協会から案内をしていただいたため、多くの自治体職員が参加してくれた。

こうした努力の甲斐により今回は例年にも増して多くの自治体職員の参加をみた。

この施工展の目的が自治体職員への更生工法に対す

る理解促進と、発注者側である自治体への各更生工法のPRであることを考えた時、これらの研修により多くの自治体職員の参加をみた事は、今回の施工展が例年以上に有意義であったと考える。

また、今年も参加していただいた方に効率的に見学していただくため、午前午後それぞれ3つのグループを設け、中部支部会員によるガイドツアーを企画した。管更生技術を効率的に見学でき、ガイドの引率や出展者の説明があることから、多くの参加者が事前応募に応じており大変好評であった。

一方、これからの管更生の担い手として期待される工業高校生等を今年は2校（石川工業高等専門学校、金沢市立工業高等学校）を招待した。これらの高校生等には、下水道の役割や仕組みなどの説明を各ブースを回る前に行った。高校生もこの説明やブース見学で下水道を身近に感じてもらえたものと思う。



写真－3 来賓の各ブース廻り



写真－4 高専生および高校生の見学

4. 講演会

併催行事として右表（敬称略）に示すような講演会を、昼の時間に水の天使の西尾菜々美さんの司会の下特設テントにおいて行った。参加者は立ち見が出るほどで、テントを溢れる状況の中、写真等を用いた講演に熱心に聞き入っていた。

講演は、予算の話から下水道のマネジメント全般の考え方、地元市の更生事業の計画を中心として長期的シナリオをお話しいただいた。

5. 来年の施工展

この展示会は、毎年当協会の7支部の持ち回りで開催されており、3巡目に突入している。

来年の開催場所は、関東支部の横浜市の動物園ブルーシアの駐車場で開催することが決定している。横浜という最適な立地もさることながら、動物園とのコラボレーションを考えることにより、これまでにない賑わいのある施工展が開催できると期待される。関東の

表-2 講演会プログラム

「マネジメント時代の下水道事業」	
国土交通省水管理・国土保全局下水道部長	植松龍二
「金沢市における下水道管路の改築更新計画について」	
金沢市企業局建設部建設課下水道管渠改良係長	大田純也



写真-5 講演会の様子

地にふさわしいものとなるよう当協会が一丸となって企画していきたい。